

## 日本人類遺伝学会第 29 回大会記事 (1984)

### Proceedings of the 29th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1984

The 29th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on November 14–16, 1984, at the Toyama-kenmin Hall, Toyama. Prof. Zen-ichi Ogita, Toyama Medical and Pharmaceutical University, was the President of the Annual Meeting.

The academic program consisted of three symposia, one workshop, and four poster sessions. Although the symposia were held as concurrent slide sessions as usual, all the general contributions were presented in the poster sessions. The abstracts of all the presentations in the symposia and poster sessions are printed in this issue.

The meeting of the Board of Directors (Rijikai) of the Japan Society of Human Genetics was held on November 13 at the Toyama-dai-ichi Hotel. The main agenda of the meeting consisted of the following: 1) discussing and deciding the policy related to the reorganization of the Science Council of Japan; 2) discussing and nominating the Presidents of the 31st and 32nd Annual Meetings of the Japan Society of Human Genetics; 3) discussing the aid for parts of traveling expenses of the 7th International Congress of Human Genetics.

After the meeting of the Board of Directors, the meeting of the Council (Hyogin-kai) of the Japan Society of Human Genetics was held on the same day at the same hotel. The general meeting (Soukai) of the Japan Society of Human Genetics was held on November 15 at the Toyama-kenmin Hall. In these meetings, Prof. Shiro Miwa, Tokyo University, was approved as the President of the 31st Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics and Prof. Ken Furukawa, Gunma University, as the President of the 32nd Annual Meeting, based on the recommendation of the Board of Directors. In addition, it was decided that parts of traveling expenses will be aided for a few of Japanese participants of the 7th International Congress of Human Genetics.

Besides the agenda described above, reports on the following subjects were made in the three meetings: IGF, editing, ongoing work of the Terminology Committee, preparations for the 30th Annual Meeting, changes in membership, finance, audit, the Grant-in-aid for Scientific Research from Ministry of Education, Science and Culture of Japan, the 7th International Congress of Human Genetics, and so on. The reports as well as the agenda are described below in more detail in Japanese.

会 場 富山市新総曲輪 4-8 富山県民会館  
会 期 昭和 59 年 11 月 14 日~16 日  
大会会長 荻田善一 (富山医科薬科大学教授)  
大会副会長 松田健史 (富山医科薬科大学教授)

**発表** シンポジウム

- 1) 染色体研究法の新しい展開  
司会：美甘和哉（旭川医大・生物）
- 2) ヒト遺伝病の新しい解析法  
司会：松田一郎（熊本大・小児），服巻保幸（九大・生化）
- 3) がんと遺伝子  
司会：豊島久真男（東大・医科研）

## ワークショップ

司会：荻田善一（富山医科薬科大・和漢薬研）

一般講演 154 題

**第 1 日** (11 月 14 日)

荻田大会長の開会の辞に引き続き、午前中に大ホールでシンポジウム 1) が行われ、終了後に記念撮影が行われた。午後は一般演題 116 題が発表されたが、本年度大会の一般演題はすべてポスターの統一形式で行われ地下展示場に展示された。演題は 4 つのセッションに区分され、1 会場でそれぞれのセッションの発表と討論が同時に進められた。このため設営から発表の細部に至るまで新しい試みと工夫が取り入れられた。

**第 2 日** (11 月 15 日)

午前は引き続き 38 題の一般演題の発表が行われた。午後は総会議事に続いて地下展示場でワークショップが開催され、またポスターセッションの自由討論も行われた。講演終了後、懇親会が開かれた。

**第 3 日** (11 月 16 日)

午前はシンポジウム 2)、午後はシンポジウム 3) が行われ、松田大会副会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

大会への会員参加は 420 名、うち当日会員は 120 名であった。なお本年度は関連学会として大会に引き続いて第 4 回富山カンファレンス（代表：荻田善一教授、ライフサイエンス復興財団後援）が立山国際ホテルで 17 日～19 日の期間開催され、多くの本学会会員が参加した。

**理事会**

日 時：昭和 59 年 11 月 13 日 16:00～17:30

場 所：富山第一ホテル

出席者：井上会長、岡島、外村、笹月、荻田各理事、中嶋、池内、松井各幹事、和田次期大会長、浜口編集委員長

**報告および協議事項**（評議員会記録参照）

1. 日本学術会議の改組に伴う本学会の対応について経過説明があり、協議を行った。
2. 昭和 61 年度大会および昭和 62 年度大会（第 22 回日本医学会総会分科会）の大会開催地、大会長の案が示され了承された。
3. 名誉会員候補者 1 名が推薦され了承された。
4. IGF 関係の報告、編集関係の報告、用語委員会の作業進行状況、次期大会準備状況の報告などがなされた。
5. 第 7 回国際人類遺伝学会議出席のための旅費補助について協議がなされた。

**評議員会**

日 時：昭和 59 年 11 月 13 日 18:00~19:30

場 所：富山第一ホテル

出席者：48 名

開会に先立ち本学会名誉会員 J. Francois 名誉教授の御冥福を祈念した。

**I. 報告事項****1. 庶務報告**

- 1) 会員異動状況, 理事会開催 (9 月 14 日, 11 月 13 日) および理事・理事経験者懇談会の開催 (9 月 14 日) について報告がなされた。
- 2) 理事担当事項の一部変更と会計幹事の交替・新幹事の委嘱が報告された (人遺誌, 29 (3) : 401, 学会記事参照)。

**2. 会計報告**

- 1) 昭和 58 年度会計報告および同監査報告がなされた。
- 2) 昭和 59 年度会計中間報告がなされた。

**3. 昭和 60 年度大会準備状況報告 (和田義郎次期大会長)**

第 30 回日本人類遺伝学会は昭和 60 年 11 月 7 日~9 日, 名古屋市中小企業復興会館で開催予定である旨の報告がなされた。

**4. 委員会報告****1) 学会賞選考委員会**

昭和 59 年度学会賞は該当者なしとの報告がされた (人遺誌, 29 (2) : 275, 学会記事参照)。

**2) 人類遺伝学会用語委員会**

委員会の作業進行状況が報告された (人遺誌, 29 (2) : 275, 学会記事参照)。

**3) 編集委員会**

論文の投稿, 受理状況についての報告がなされた。年次大会記録に本大会より英文要約を併記することとなった。

**5. 理事担当事項等報告****1) 学術会議関係**

日本学術会議の改組に伴う本学会の対応については, 昨年度の評議員会および総会の決定に従い理事会で対応し, その経過が報告された。9 月 14 日 理事・理事経験者懇談会および同日の理事会において, 本学会から日本学術会議会員候補者を推薦することとし, 登録手続きをすすめ, 関連研究連絡委員会は 1) 遺伝医学研連, 2) 遺伝学研連, 3) 出生・発達障害研連の順序で選定したことが報告された。登録手続きに必要な本学会役員の履歴調査が 9 月 8 日に行われ, 評議員 111 名中 103 名の協力が得られた。その後, 今期の遺伝医学研連 (実働研連) の委員の推薦依頼があり, 関連国内学会および関連専門分野を考慮して 5 名の委員 (井上英二, 松永 英, 三輪史朗, 佐々木本道, 松田一郎) を推薦したことが報告され, 了承された (遺伝医学研連は渡辺敏一, 小西俊造現会員に加えて 7 名の委員数となる)。

**2) 文部省科研費関係**

人類遺伝学の細目の申請状況について次年度報告することになった。

**3) IGF 関係**

IGF 新会則承認問題についての経過と投票権についての報告がなされた。

## 4) 国際人類遺伝学会常置委員会

第 7 回国際人類遺伝学会が 1986 年 9 月 22 日~26 日に西 Berlin で開催されること、その準備状況についての報告がなされた。

## 5) その他

国際ふたご学会は 1986 年欧州で開催されることとなった。

国立遺伝学研究所が国立大学共同利用施設に改組となったことが報告された。

## II. 協議事項

1. 昭和 61 年度大会は東京で、三輪史朗教授 (東大・医科研) を大会長として開催される案が示され、了承された。
2. 昭和 62 年度大会は第 22 回日本医学会総会分科会として古川研教授 (群馬大・法医) を大会長とする案が示され、了承された。
3. 名誉会員として三好和夫氏 (徳島大学名誉教授) が満場一致で推薦された。
4. 第 7 回国際人類遺伝学会出席のための旅費補助について協議が行われ、その具体案を近く学会誌に掲載することが提案された。

## 総会記事

## I. 報告事項

## 1. 庶務報告

会員の異動状況, 理事会の開催, 理事・理事経験者懇談会の開催, 理事担当事項の一部変更と会計幹事の交替・新幹事の委嘱が報告された。

会員の異動状況 (昭和 58 年 12 月 31 日現在)

		現在数	入会	退会	増減
普通会員	国内	854	59	67	-8
	国外	24	1	3	-2
名誉会員	国内	19	0	0	0
	国外	11	0	0	0
機関会員		93	2	4	-2
維持会員		4	0	0	0
計		1,005	62	74	-12

## 2. 会計報告

昭和 58 年度会計報告および同監査報告, 引き続き昭和 59 年度会計中間報告がなされた。

## 昭和 58 年度会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,932,241	雑誌刊行費	3,189,329
会費	5,979,899	雑誌送費	224,553
雑誌売上代料	737,600	雑誌編集費	87,000
論文掲載	393,071	会員名簿作成	255,000
文部省科研費	1,310,000	大会補助金	300,000
医師会助成金	200,000	IGF 会費	72,010
広告掲載	280,000	事務費	759,555
預金利子	148,844	理事会旅費	167,400
		人件費	580,000
		次年度繰越金	8,346,808
計	13,981,655	計	13,981,655

{27巻4号  
{28巻1,2号

## 昭和 59 年度会計中間報告

(59. 1. 1-59. 11. 1)

収 入		支 出	
前年度繰越金	8,346,808	雑誌刊行費	2,686,305
会 費	2,033,393	雑誌発送費	167,630
雑誌売上代	544,500	雑誌編集費	150,000
論文掲載料	308,689	事 務 費	348,760
文部省科研費	(1,420,000)	大会補助金	300,000
広告掲載料	355,000	理事会旅費	334,100
預金利子	87,218	人 件 費	600,000
計	13,095,608	計	4,586,795

3. 昭和 60 年度大会準備状況について和田次期大会長から報告があった。
  4. 委員会報告  
学会賞選考委員会, 人類遺伝学会用語委員会, 編集委員会からそれぞれ報告があった。
  5. 理事担当事項等報告  
学術会議関係, IGF 関係, 国際人類遺伝学会常置委員会, その他の報告がなされた。
- II. 協議事項
1. 昭和 61 年度大会開催地, 大会長案が示され, 満場一致で了承された。
  2. 昭和 62 年度大会 (第 22 回日本医学会総会分科会) の大会長案が示され, 満場一致で了承された。
  3. 三好和夫氏を 43 人目の名誉会員に推薦することが提案され, 満場一致で了承された。
  4. 第 7 回国際人類遺伝学会出席のための旅費補助についての具体案を近く学会誌に掲載することが提案され, 了承された。

(庶務幹事 松井一郎)